

歴史講座 13:30~15:00
 講座番号⑥「光源氏の六条院邸 -野分の見舞いと夕霧-」
 日時:3月28日(土)
 講師:伊井 春樹(当館名誉館長)

考古講座 13:30~15:00
 講座番号④「東予の後期古墳 -宇摩平野を中心に-」
 日時:2月22日(土)
 講師:富田 尚夫(当館専門学芸員)

古文書講座 13:30~15:00
 講座番号③「宇和島藩士吉見家文書を読む①」
 日時:2月16日(日)
 講師:安永 純子(当館専門学芸員)

講座番号④「宇和島藩士吉見家文書を読む②」
 日時:3月15日(日)
 講師:安永 純子(当館専門学芸員)

特別展「四国・愛媛の災害史」関連講座
 「災害の記憶と文化の継承 -東日本大震災と民俗文化財-」
 日時:2月23日(日・祝) 13:30~15:00
 講師:川村 清志氏(国立歴史民俗博物館准教授)

映画会「モノ語る人びと -津波被災地・気仙沼から-」
 (平成30年・国立歴史民俗博物館製作)
 日時:3月7日(土) 13:30~16:00
 講師:葉山 茂氏(国立歴史民俗博物館助教)

「安政南海地震の古文書を読み解く」
 日時:3月21日(土) 13:30~15:00
 講師:井上 淳(当館学芸課長)

「四国の地震災害史 -過去の南海地震を知る-」
 日時:3月29日(日) 13:30~15:00
 講師:大本 敬久(当館専門学芸員)

《お問い合わせ》
 企画普及グループ・歴史文化講座係
 TEL (0894) 62-6222
 FAX (0894) 62-6161

申込方法 希望する講座名・講座番号とご住所・お名前・年齢・電話番号など必要事項を記入し、開講日の1週間前までにハガキなどでお申し込みください。
 ※定員に満たない場合は、申込締切後にも受け付けます。

歴史文化博物館友の会 会員募集

3月1日から令和2年度新規会員を募集します。友の会は、愛媛の歴史や民俗について、学び親しむ人たちの集まりです。

《会員特典》

- 常設展と企画展を無料で観覧できます。
- 「会報」や「歴博だより」などをご自宅にお届けします。
- 友の会主催行事に参加できます。
 - ① 研修旅行(年1回)
 - ② 現地学習会(年2回)
 - ③ 歴史ウォーク
 - ④ クラブ活動(民俗、土器、裂織、古文書)
 - ⑤ 特別展解説会
- 季節体験イベントの材料費が割引となります。
- 博物館の刊行物が割安で購入できます。

《入会方法》

- 会費をご持参の上、歴史文化博物館に直接お申込みください。
- 郵便振替払込取扱票に、名前・住所・電話番号・会員の種類を記入の上、郵便局で会費をお振り込みください。

口座番号 01610-0-45873
 愛媛県歴史文化博物館友の会
 (ご入金を確認後、会員証をお送りいたします。)

《年会費(4月~翌3月)》

【小中学生会員】 500円 【高校生会員】 1,000円
 【大人会員】 3,000円 【家族会員】 4,000円
 【賛助会員】 10,000円



《お問い合わせ》
 友の会事務局
 TEL (0894) 62-6222

おひなさまイベント 十二単着付け体験
 日時 2月29日(土)・3月1日(日)
 桃の節句にちなんで十二単の着付けを実施! 本格的な十二単でおひなさまになっちゃおう!
 博物館HPからの申込みが必要です。各日8名、応募者多数の場合は抽選になります。締切:2月17日(月)

展示スケジュール

2020.1-3

2020
1 ▶新春イベント 1月2日(木)~5日(日)
 テーマ展
 「松山藩の歴代藩主」
 2019年12月21日(土)~2020年1月26日(日)

2
 テーマ展
 「ぶらり四国遍路」
 2019年12月21日(土)~2020年3月29日(日)

3
 テーマ展
 「おひなさま」
 2月15日(土)~4月3日(金)

特別展
 「四国・愛媛の災害史と文化財レスキュー」
 2月15日(土)~4月7日(火)

▶おひなさまイベント 2月29日(土)・3月1日(日)

新常設展 ●空と海-内海清美展
 常設展 えひめの歴史と文化

ご利用案内

■開館時間 9:00~17:30(入館は17:00まで)
 ■休館日 月曜日(下記カレンダーをご参照ください)
 ■観覧料

	区分	一般	団体(2割引)
常設展 テーマ展	大人(高校生以上)	520円	420円
	中学生以下	無料	無料
	65歳以上	270円	220円

※特別展の観覧料はその都度定めます。 ※団体は20名以上です。
 ※テーマ展をご覧いただくには、常設展示観覧料が必要です。
 ご利用の際は、再度ご確認ください。

Museum Calendar 2020.1-3

1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1							1	1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	
9	10	11	12	13	14	15	15	16	17	18	19	20	15	16	17	18	19	20	21	
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	22	23	24	25	26	27	28	
23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31			29	30	31					

※2月5日(水)・6日(木)は臨時休館日です。



愛媛県歴史文化博物館
 MUSEUM of EHIME HISTORY and CULTURE

管理運営:指定管理者 いよてつ総合企画
 〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4-11-2 電話:0894-62-6222
 [ホームページ] http://www.i-rekihaku.jp

●発行日 令和2年1月11日 ●編集/発行 愛媛県歴史文化博物館

歴博だより

Museum of EHIME History and Culture News

令和2年
 2月15日(土)
 4月3日(金)

【会場】 文書展示室
 【観覧料】 常設展観覧券

西条藩9代藩主松平頼学の夫人、通子の雛飾りを中心に享保雛、古今雛、次郎左衛門雛など、多彩なおひなさまの姿を紹介いたします。

テーマ展
 おひなさま



考古

えんめんけん
円面硯

古代の文房具といえば何を思い浮かべますか？

発掘調査により出土する文房具には、荷札や文書として使用された木簡や、その木簡を再利用する際に木の表面を削る刀子、硯に水を垂らすための水滴など種類は様々ありますが、中でも硯について紹介します。

古代の硯の主流は焼き物で、現在広く使われている石製の硯は中世から普及していきました。

今回は円面硯と呼ばれる硯を見てみましょう。現在よく目にする四角形の硯とは異なり墨を擦る部分が円形で、多くはその周囲を低くすることで墨の溜まる場所を確保しています。硯の形は他にも、「風」という字形に似ている風字硯や、羊や鳥・亀といった動物モチーフのもの、宝珠の形をしたものなどもあり、文房具一つにもこだわりが見えてきます。

写真の円面硯は、四国中央市大小谷谷窯跡から出土したものです。遺跡は同市金生町の金見山から派生した山塊の谷筋に位置し、飛鳥時代から白鳳時代まで須恵器を焼く窯として操業していました。当遺跡で作られていた焼き物は杯、蓋、壺、甕、皿、椀の他、土錘、陶棺など多くの種類が出土しています。この硯には脚台が備わっており、透かしと呼ばれる



長方形の穴が横1列に開いています。穴の上下に沿うように1本ずつ沈線が引かれていますが、透かしによって消えている部分もあります。文様とも考えられますが、透かしを均一に開けるための目安として引かれた可能性もあります。この硯が見つかった場所は失敗作などを捨てる灰原であるため、使用されたものではなく、墨の痕跡は見られませんが、この遺跡で作られた硯は出来具合を確認し、役所や寺院に運ばれ、使われていたのでしょう。そのため当遺跡は公的な性格を有していたと考えられます。

(学芸員 中村美琴)

出土地：大小谷窯跡（四国中央市金生町）
年代：7世紀代
法量：周縁径18.4cm 器高6.3cm
所蔵：四国中央市教育委員会

常設展の歴史展示室1ではこの円面硯をはじめ、風字硯や伊予砥（提砥）、銅印などの文房具を見ることができます。ぜひご覧ください。

歴史

ひなひやくしゅ
雛百種

日本画家であった西澤笛畝は、人形玩具蒐集家であった養父仙湖の影響を受けて人形に興味を持ち、画業の傍ら、人形研究やその蒐集に力を注ぎました。

『雛百種』は、日本画家久保田米斎との共編により、大正4年（1915）年に芸艸堂から刊行されました。上、中、下の3冊に分かれた木版多色刷の和綴じ本には、雛人形の原型ともいわれる這子や天児をはじめ、有職雛、次郎左衛門雛といった優品、日本各地の郷土玩具の雛人形、変わり雛などが幅広く採集されています。百種類もの雛人形を写生し、素材や大きさなども併せて紹介した『雛百種』は、いわば雛人形の図鑑のような存在です。

では、どのくらい忠実に描いているのか、当館所蔵の雛人形と見比べてみます。「土佐卯之町立雛」と、八代村（八幡浜市）の庄屋菊池家に伝わった立雛。この二つの立雛は土佐（高知県）でつくられていたことから「土佐立雛」と呼ばれています。立雛とは、立ち姿の雛人形をさし、その多くは紙で作られていたことから紙雛とも呼ばれます。最も古い雛人形の形式で、男雛は腕を広げたヒトガタのような姿、女雛は筒状に丸めた着物姿をしています。一般的な立雛の場合、男雛の肩の高さ付近まで女雛の背丈がありますが、土佐立雛の場合は、女雛は男雛の袴の丈を少し上回った程度の背丈しかなく、この大きさの著しい違いが特徴とされています。二つをならべてみると、男雛や女雛の着物の色彩や模様がよく似ているほか、男女の極端な大きさの違いなど、笛畝が土佐立雛をよく観察して写生していたことが分かります。

本書のはしがきに笛畝は、人形の素材によっては永く保存が難しいことを憂い、人形の姿を後世へ伝えるためにまとめた」と記しています。本書はその役割を果たし、現代の私たちにさまざまな雛人形の姿を教えています。

(専門学芸員 宇都宮美紀)

年代：大正4年（1915）
サイズ：縦19.6cm 横27.6cm
所蔵：当館蔵



『雛百種』は、テーマ展「おひなさま」(2月15日～4月3日)にて展示します。

令和元年度特別展

四国・愛媛の
災害史と
文化財レスキュー

令和2年2月15日(土)・4月7日(火)

休館日 | 2月17日(月)・25日(火) / 3月3日(火)・9日(月)・16日(日)・23日(日)

会場 | 企画展示室

料金 | 特別展観覧券(高校生以上350円、小中学生・65歳以上180円)



◀昭和18年7月水害写真(愛媛県蔵)。現八幡浜市神山地区で五反田川が氾濫し道路、橋梁が損壊している。この水害では八幡浜市、大洲市域で約50名の犠牲者が出ている。



▲前田伍健「戦災画記」(個人蔵)。昭和21年12月の昭和南海地震での松山の被害を描く。中予、東予で家屋の倒壊により約20名が犠牲になり、道後温泉は約3ヶ月間、湯が不出となった。

愛媛県をはじめ四国で今後大きな被害が想定される南海トラフ巨大地震への備えとして、過去の地震・津波での被害に関する資料を展示するとともに、甚大な被害の出た平成30年7月豪雨をはじめ、愛媛で発生した水害・土砂災害の歴史を紹介します。

特別展開連イベント

身近にあるもので
災害時に役立つものを作ってみよう!

日時 / 特別展会期中の土・日・祝日 ※2/29・3/1はお休みします。
10:00～12:00、13:00～16:00

場所 / こども歴史館

※関連講座は4ページをご確認ください。

● 食用オイルでキャンドルをつくろう
材料費 / 200円(友の会会員は150円)



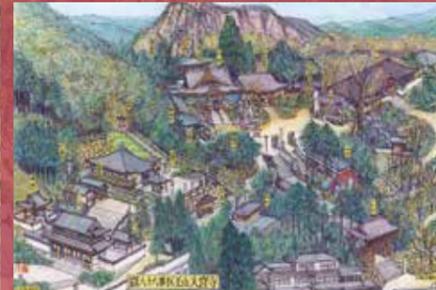
● 新聞紙でスリッパ&お皿をつくろう
材料費 / 無料



テーマ展

ぶらり四国遍路

本展では、平成の四国八十八箇所霊場を描いた故小亀 博氏の「四国霊場案内図会」、智内兄助指導「四国遍路の屏風」などの絵画作品、江戸時代以降の四国遍路案内記、札所や遍路道、お遍路さんを撮影した古写真などを展示します。会場でビジュアルな四国遍路資料を見ながら、ぶらりと札所を散策する気分で、四国遍路の移り変わりを感じてみませんか。



令和元年12月21日(土)
～令和2年3月29日(日)

会場：文書展示室(2月2日まで)、考古展示室
料金：常設展観覧券
(高校生以上520円、65歳以上270円、小中学生無料)

開館記念イベントを終えて

令和元年11月に愛媛県歴史文化博物館は開館から25年をむかえました。11月9日・10日の2日間は開館記念イベントを行い、恒例のお餅・お菓子くばりや呈茶会、秋のワークショップなどのイベントを開催しました。また、今回で12回目になる「れきはく市・はに坊のどんぐりマルシェ」は2日間開催。多目的ホールでは人気歴ドルの美甘子さんと小日向えりさんによる歴史トークショーを行いました。たくさんのご来館ならびにご協力、誠にありがとうございました。今後とも愛媛県歴史文化博物館をよろしく願っています!

